

4・25法大闘争へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2014年4月21日
No.187

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全国大学で新歓講演会がうち抜かれる！

◆沖縄大学（4月18日）

沖大学生自治会復活会は4月18日、「青年・学生は団結して戦争・基地をなくそう！」と題して新歓講演会を行いました。復活会への教室貸し出しを拒否する沖大当局の企画つぶしと闘い、多くの新生の参加を勝ちとり大成功しました！

講師は、日本IBMビジネスサービス労働組合・富田晋委員長と、全学連・坂野陽平書記長です。

富田さんは、辺野古海上案を阻止した10年間の闘いの経験と教訓、動労千葉や全軍労牧港支部青年部の闘いから得た労働組合の力への確信を語り、同労組書記長にかけられた雇い止め攻撃と闘う決意を明らかにしました。そして、「議論も許容しない大学とは何なんだ！ 大学に自治会があれば変わる。沖大生に力がある」と沖大生に檄を發してくれました。

坂野書記長は、ウクライナ情勢や安倍政権の動向が示す今の時代を「資本主義の最後の延命策＝新自由主義が崩壊し、戦争か革命かが問われる時代。一人ひとりの名もなき人々が天下国家を揺り動かす時代」と喝破。全学連が法大闘争や3・11福島原発事故との対決、闘う労働組合との連帯から学生自治会を全国に再建する闘いに挑戦してきたことを明らかにし、

「全学連とともに学生運動をやろう！」と熱く訴えました。

活発な質疑応答のあと、復活会代表が行動方針を提起。「沖大生も改憲阻止、辺野古新基地建設阻止で立ち上がろう。

『基地反対』と言いながら、この講演会をやらせない沖大当局は安倍を裏から支えるものでしかない。戦争と大学の問題は一緒。沖大生は一つになり、学生自治会をつくって行動しよう！」と、5月沖縄闘争への決起を呼びかけました。

参加した新生は、「あらためて、この国の資本主義経済の崩壊と、学生・労組の団結力の強さを確認することができた。坂野さんの必死の熱弁に心を動かされた。今後変革のために自治会で活動していきたい」と感想を述べています。改憲・戦争へ突き進む安倍政権、その先兵に成り下がった沖大・仲地博学長体制と対決し、沖大生は5月沖縄闘争と学生自治会再建へ攻め上ります！（沖縄大学・A）

◆広島大学（4月17日）

4月17日、布施幸彦医師（ふくしま共同診療所）の講演会に約30人が参加、大成功しました！ 講演では、小児甲状腺がんが多発しているにもかかわらず放射能との関係性を見ようと



「大学改革」粉碎！ 大学の主人公は学生だ！

4・25法大解放総決起集会

4月25日（金）12:40～ 法政大学市ヶ谷キャンパス集合
13:30～ 法大包囲デモに出発

※終了後、文科省に申し入れ行動

呼びかけ：4・25集会実行委員会

（法政大学文化連盟 <http://08bunren.blog25.fc2.com/> bunren08@yahoo.co.jp）



しない福島県立医大の検査手法の問題性を暴き、広大から派遣された神谷研二教授ら御用学者、さらには福島県・国の圧力に屈せず、県民に寄り添って地道な診療活動が続けている「ふくしま共同診療所」の姿勢がよく伝わってきました。

重要なのは、先生自身が「いま福島で信念をもって活動できるのも、学生時代の自治会運動の経験が土台になっている」と明言し、広大自治会に熱いエールを送って下さったことです。

講演後は、特に新入生が活発に質問。「甲状腺以外の影響はあるのか?」「診療所の後継ぎはいるのか?」、そして「医者になって診療所の後継ぎの一人になる」と決意する新入生も!

また、「福島が忘れられ、安倍政権は再稼動を狙っている。声をあげていくことが大事だ」と感想を述べる新入生、…。彼ら・彼女らとともに、自治会2年目の取り組みを、がんがん進めていきたいと思えます。

広大当局は入学式の後、全新生に自治会への妨害文書を配ったり、入学式会場でのサークル勧誘を規制したり、これまで以上に自治破壊にのめり込んでいますが、学生の批判の声は拡大しています。

安倍政権は「グローバル競争」での生き残りをかけ、改憲(戦後レジームからの脱却)に突き進んでいます。そのために「大学改革」の重要性を激しく呼号し、「成長戦略」の要に位置づけ、大学自治破壊を推し進めようとしています。学生自治拡大の闘いは、改憲・戦争国家化を進める安倍政権を、キャンパスを戦場にして打倒していく闘いです。福島ー広島連帯を固め、広大学生自治会が安倍政権打倒闘争と今夏8・6ヒロシマ闘争の責任勢力となるべく頑張ります。(広島大学・K)

◆富山大学(4月18日)

富山大でも新歓闘争が成功しています。4月7日から始まった富大新歓は、富山大学学生自治会が「監獄大学=富大」で、正門だけでなく学部やサークルや寮など大学すべてを戦場として、生き生きと創意工夫しながら闘い抜いています。その中で、新入生、上級生との合流が始まり、富大を学生の手に取り戻す闘いが前進しています。

4月18日には、ふくしま共同診療所から布施幸彦医師と法大文連委員長・武田君を呼んで行った新歓講演会が大成功しました。新たな参加者は、福島の現実を学び、法大闘争に感動し、「処分を撤回させたい」という立場から意見や質問が活発に飛び交い、集会時間を大幅に延長して盛り上がりました。法大闘争が全国300万学生の闘いとして捉えられています。



こうした新歓講演会の成功は、正門前だけでなく富大全体を対象に闘ってきたことでかちとられています。富大当局はキャンパス全体にサクラ色のノボリを立て、「キトキトな大学やちゃ」(富山の方言で「元気な大学です」の意味)と宣伝しています。しかし現実には、徹底的なサークル規制により、この新歓期にまともな勧誘さえできないほど自由が奪われています。どこが「キトキトなのか!」という怒りが噴出しています。

さらに、遠藤学長は入学式式辞で「人との交わりと対話の重要性」を語りながら、学内では大学職員が武田君の処分撤回署名に応じる学生を「署名なんかなくても良いよ」と弾圧し、「活動家だから学内に入れない」と学生運動を弾圧しています。しかし、その大学の姿を見て「教育の民営化の内容が分かった」という学生も登場しています。大学当局がどう語ろうが、この新自由主義大学の現実こそが学生の誇りを奪い、主体性を押しつぶす存在であることを学生がつかみとり、立ち上がり始めています。

新歓期もいよいよ後半戦です。富大から4・25法大闘争へ攻めのぼります!(富山大学・N)



首都圏でも杉井吉彦医師(ふくしま共同診療所)を招いての新歓講演会が成功!(4月20日)

【当面する行動方針】

●集団的自衛権に反対する4・27集会

4月27日(日) 13時半～ 星陵会館(千代田区永田町2-16-2) ※集会後にデモ

【主催】とめよう戦争への道! 百万人署名運動

●5・17～19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止! 「改憲・戦争」の安倍政権打倒! 学生自治会を甦らせよう!

●6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※30分前までに裁判所脇に集まって下さい

